

ミッションクリティカル分野の推奨製品として 柔軟かつ最適な IT 基盤の構築を支援

創立以来、エンタープライズインフラストラクチャソフトウェアのリーディングカンパニーとして、一貫して業界標準技術にこだわり、優れた技術力と高信頼性の提供で最適な企業IT基盤の構築を支援してきたBEAシステムズ。世界18,000社以上の導入実績を誇るBEAシステムズの製品は、日本においても、官公庁・自治体、通信、金融、製造、流通など、NTTデータをはじめとしたパートナー企業とともに、堅牢性や高信頼性を要求されるミッションクリティカル分野において、数々の実績を残してきた。現在は「BEA Tuxedo」、「BEA WebLogic」、「BEA AquaLogic」などの製品群を中心に、SOA（サービス指向アーキテクチャ）、BPM（ビジネスプロセス管理）、エンタープライズ・ソーシャル・コンピューティングなどの技術を融合させた「ダイナミック・ビジネス・アプリケーション」や、人、プロセス、情報の間のギャップを解消する「Liquid Enterprise」の実現に向けた取組みを展開している。

ここでは、NTTデータとの連携のもと、数多くの実績を残してきた公共、通信分野を中心に、これまでの取組みと現在注力しているソリューション等を紹介する。

オープンで柔軟な標準技術を ベースにIT基盤の構築を支援

BEAシステムズは、オープンで柔軟な業界標準の技術をベースに、プラットフォームやアプリケーションに依存することなく、常に最適なIT基盤の構築を支援してきた。特に日本を代表するシステムインテグレータであるNTTデータとの協業では、推奨製品として、公共、金融、通信分野を中心に「絶対に止まらない」ことが前提のミッションクリティカル分野において数多く採用されてきた。

NTTデータとの協業が多い公共分野では、業務システムの最適化への動きと並行して、Javaをはじめとしたオープンな標準技術の採用が進み、かつてはメインフレームで構築されていたシステムの多くで、BEA製品の導入が進められた。その一例として、NTTデータが提供してきた介護事業者支援システム「かがやきぷらん」の本格的なASPサービスに向けたインフラの構築がある。

NTTデータは、介護保険制度が開始された2000年4月から、介護事業者支援システム「かがやきぷら

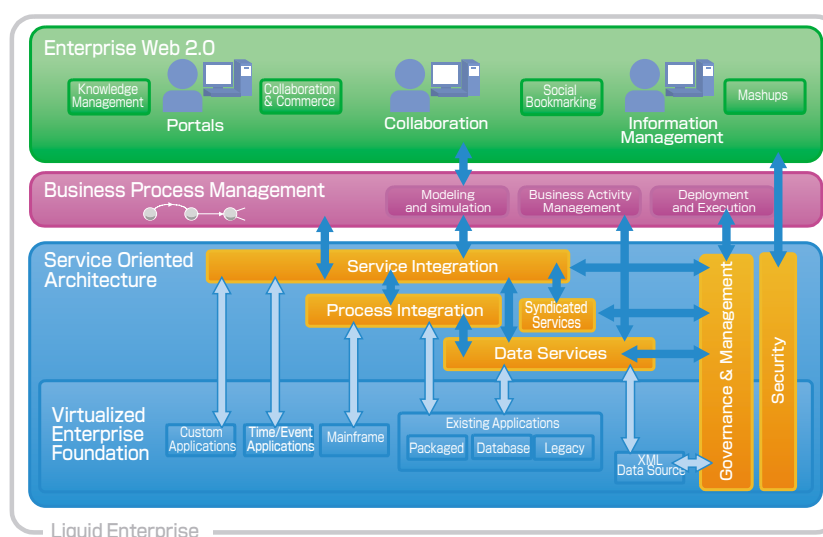


図1 BEA Liquid Enterprise

ん」の提供を続けてきた。その後、2006年4月に介護保険制度の大幅な見直しが実施され、NTTデータは制度改正への対応と市場ニーズの変化を見込み、本格的なASPサービス「かがやきぷらんⅡ」への移行を決定した。そして、ASPサービスを開始するにあたり、そのインフラ選びが開始され、検討の結果、システムの要として「BEA WebLogic Server」が選ばれた。その理由として、NTTデータは次の4つをあげている。1つ目は、アクセス数の急増に耐えられる負荷分散機能や、利用状況をモニタリングできるログ機能といった機能の実装。2つ目は、NTTデータの技術部門の推奨製品であったこと。3つ目は、ミッションクリティカル分野での豊富な実績。そして4つ目が、サポート体制の充実である。NTTデータは、WebLogic Server上に構築される業務アプリケーションを同社で作成した開発方法論を用いて構築し、わずか半年間でカットオーバーした。

最大のビジネス価値を提供して 持続可能な競争力を生み出していく

BEA システムズは今、「Liquid Enterprise」の実現に取り組んでいる。これは、企業が「ビジネスの革新」、「ビジネスの俊敏性」、「ビジネスの最適化」を実現することで、ビジネスとITの間のギャップを解消し、持続可能な競争力を生みだせるようになるための手助けをするBEA システムズのビジョンである。このLiquid Enterpriseを実現する

ためには、従来型の企業の運用、投資モデルの特徴である垂直的なサイロを無くし、代わりに人、プロセス、情報の水平的な結合という組織化の原則を適用することが必要である。そのためには、従来のモノリシック（一枚岩的）なアプリケーションからビジネスロジックを分離し、IT資産をゆるやかに結合していかなければならない。

そして、Liquid Enterpriseの構築を支援するために、次の3つの主要技術に焦点をあてている。

◆サービス指向アーキテクチャ (SOA) : ビジネスタスクを緩やかに結合された再利用可能なサービスに変換

◆ビジネスプロセス管理 (BPM) : リアルタイムでのビジネスの把握と管理を実現

◆エンタープライズ・ソーシャル・コンピューティング: ユーザーを中心に据え、ユーザー参加型を実現する

また、Liquid Enterpriseの構築に向けたアプローチとして「BEA Enterprise 360°」がある。これは、BEA システムズの製品技術、人、ベストプラクティス、および幅広いパートナーネットワークを連携して、最大のビジネス価値を提供していくことを目的としたものである。具体的には、次のような技術および製品でビジネスを変革していく。

●コア・アプリケーション・インフラストラクチャ (WebLogic、Tuxedo) がSOAのための強固な基盤を提供。

●仮想化、「BEA WebLogic Real Time」、およびイベント駆動型コンピューティングによって、基盤は新しい重要な領域へと拡張。ミッションクリティカルなSOA資産は、その柔軟性が最大限に高められ、リアルタイムでの複雑な処理と迅速な応答が可能になる。

●「BEA AquaLogic Service Registry」、「BEA AquaLogic Enterprise Repository」、「BEA AquaLogic Service Bus」、および「BEA AquaLogic Data Services Platform」から構成されたエンタープライズサービスのバックボーンによって、運用管理されたサービスを企業全体で安全に、シームレスに、かつ効率的に提供できるようになる。

●BPMによって俊敏性が次の段階に進化し、閉じたループのビジネスプロセスを実現する。

●エンタープライズ・ソーシャル・コンピューティングによって、企業のIT部門による制御が可能なWeb 2.0の革新技術が提供される。

日本BEAシステムズでは、Liquid Enterpriseと並行して「ダイナミック・ビジネス・アプリケーション」の実現に向けた取組みも展開している。これは、ビジネスの革新をアプリケーションレベルで実現するために、SOA、BPM、エンタープライズ・ソーシャル・コンピューティングなどの技術をシームレスに連携させて、徹底的に簡素化した方法でアプリケーションの設計、実装、テスト、デプロイ、運用監視を行うことを可能にしたソフトウェア

基盤のことである。このダイナミック・ビジネス・アプリケーションによって、業務部門とIT部門の双方がダイナミックにアプリケーションの構築や変更、配備ができるようになり、競争上の優位を確立することができるようになる。

業務の効率化とコスト削減を実現してIT環境を継続的に改善

公共分野とともに、NTTデータとの協業が多いのが通信分野である。

激しい過当競争が進む通信業界の中で、各通信事業者は顧客を確保して多くの収益を上げながらマーケットシェアを獲得していくために、既存のネットワーク基盤を最適化して、より効率的なオペレーションの実現と顧客ニーズに柔軟かつ迅速に対応したサービスを提供できる仕組みを求めている。そのためには、堅牢性や信頼性ととも、柔軟性や拡張性に優れ、低コストで迅速にサービスを提供できるIT環境が必要である。これを実現する技術として注目されているのが、SOA、BPMである。SOAは、アプリケーションの個々の機能を迅速にビジネスニーズに対応できるよう、相互運用性のある標準規格のサービスと組み合わせ、再利用することでITの適応性と効率性を高める設計手法である。一方BPMは、業務のプロセスを分析/設計(Plan)、実行(Do)、運用監視(Check)、改善/構築(Action)の段階に分けて、目標(指標)を達成するために、PDCAのサイク

ルを継続的に遂行していくプロセスを管理していく手法である。

BEAシステムズは、早い時期からSOA、BPMの実現に取組み、ベストプラクティスの提供やコンサルサービスとともにSOAやBPMを実現するアプリケーション基盤、サービス基盤製品を開発、提供してきた。その1つが、各アプリケーションの動的な連携を可能とするESB(Enterprise Service Bus)上にサービスを切り出すことで、SOAへの移行を容易にする「次世代システム統合ソリューション」である。これは、複雑化したシステム連携を改善して、可視性に優れた柔軟性の高いアーキテクチャを構築することを目的としたソリューションである。このようなソリューションをベースとし、例えば、通信事業者向けには、SOAに基づいた

「システム連携基盤」として業務の効率化とコスト削減を実現し、将来に渡って継続的に改善していくための基盤を提供している。

日本BEAシステムズは、日本国内での実績を、海外のプロジェクトにも反映させて、より最適な製品&ソリューション開発に役立てている。

通信事業者の要求レベルを満たした「BEA WebLogic Communications Platform」

さらに通信分野に特化した「BEA WebLogic Communications Platform (WLCP)」がある。WLCPは、ITと通信を統合した統合スイートで、固定や無線、またはIPベースのネットワークにおける迅速な統合サービスの構築、導入、管理を可能にするアプリケーション開発プラットフォー

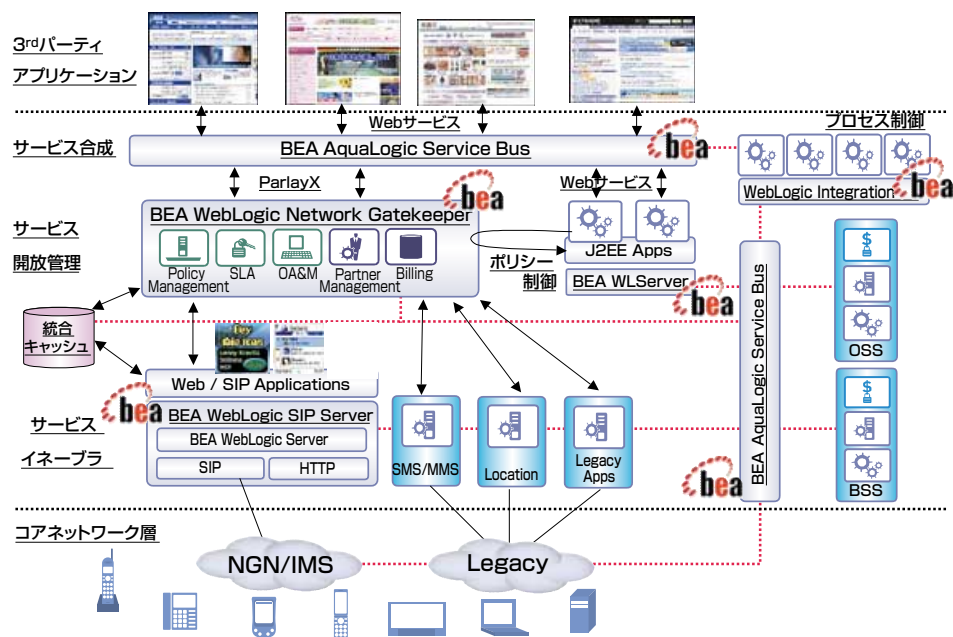


図2 BEA WebLogic Communication Platform



日本BEAシステムズ株式会社
代表取締役社長
志賀 徹也

創立20周年おめでとうございます。

過去20年日本のIT技術および各分野における重要なシステム構築にNTTデータ様が大きく貢献し、今日のNTTデータ様の地位を築かれたことに心から敬意を表すと共にお慶びを申し上げます。

NTTデータ様と日本BEAシステムズはIT基盤の中核をなすミドルウェアの分野で10年ほど前から協業をさせて

これからの20年も 社会に貢献されんことを ご期待申し上げます

いただいております。BEA Tuxedo、BEA WebLogic製品群は、大規模で社会インフラとなる、堅牢性、信頼性が求められるミッションクリティカル分野で推奨製品として採用していただき、また、最近ではプロジェクトベースでBEA AquaLogic製品も検討していただいております。

弊社の持つミドルウェアの技術が、NTTデータ様がこれから指向される「変革の先進企業」に少しでもお役に立てればと願っております。そしてこれからの20年、日本のIT技術、およびシステム構築のリーダーとして日本の社会に、さらに貢献されんことをご期待申し上げます。

ムである。TuxedoやWebLogicなどのソフトウェアの基盤やミッションクリティカルな通信事業者が要求するアプリケーションサーバなどを長年にわたり開発してきたBEAシステムズの経験に基づき構築された製品である。

WLCPは、3GPP、IETF、J2EE標準に準拠したオープンスタンダードSIPアプリケーションサーバである「BEA WebLogic SIP Server」と「BEA WebLogic Network Gatekeeper」の2つの製品で構成されている。WebLogic SIP Serverは、標準準拠の通信事業者が必要とするクラスのサーバ製品で、ITとネットワーク機能を統合し、SIP環境におけるサービスの構築および実装を目的とした製品である。WebLogic Network Gatekeeperは、

SDP（サービスデリバリプラットフォーム）、Parlay XおよびテレコムWebサービス、NGN（次世代ネットワーク）、SAG（サービスアクセスゲートウェイ）、リアルタイムのSLA（サービスレベルアグリーメント）施行、IMS（IPマルチメディアサブシステム）、そして数多くのサードパーティコンテンツパートナーに対応した標準アプリケーションインタフェースを保持する。

WebLogic Network Gatekeeperは、WebLogic Serverをベースとした製品で、全世界でも多数の導入実績がある。通信事業者やサービスプロバイダーは、今後、サードパーティのサービスプロバイダーのコンテンツやアプリケーションと連携することを期待するが、その場合に、ビジネスとネットワークの統合をはじ

めとした様々な課題に直面することが予想される。このような課題を解決する製品がWebLogic Network Gatekeeperである。これを利用することで、サードパーティのサービスプロバイダーは、安全かつ最適に通信事業者のネットワーク基盤にアクセスできるようになる。また、優先トラフィックのために割り増し料金を設定するなど、柔軟なオペレーションが可能になる。既に海外では、通信事業者とコンテンツプロバイダーとが連携した「駐車スペース情報配信サービス」などの事例が数多く誕生している。

お問い合わせ先

日本BEAシステムズ株式会社
E-mail : sales.jp@bea.com
TEL : 03-5545-8440
URL : www.beasys.co.jp/